

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 福岡財務支局長

**【提出日】** 平成25年5月13日

**【四半期会計期間】** 第110期第1四半期(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

**【会社名】** 株式会社正興電機製作所

**【英訳名】** SEIKO ELECTRIC CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 福重 康行

**【本店の所在の場所】** 福岡市博多区東光二丁目7番25号

**【電話番号】** (092)473 - 8831(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営統括本部長 田中 勉

**【最寄りの連絡場所】** 福岡市博多区東光二丁目7番25号

**【電話番号】** (092)473 - 8831(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営統括本部長 田中 勉

**【縦覧に供する場所】** 証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第109期 第1四半期 連結累計期間	第110期 第1四半期 連結累計期間	第109期
会計期間	自平成24年1月1日 至平成24年3月31日	自平成25年1月1日 至平成25年3月31日	自平成24年1月1日 至平成24年12月31日
売上高 (百万円)	4,766	4,881	16,358
経常利益 (百万円)	290	271	245
四半期(当期)純利益 (百万円)	254	255	19
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	309	334	36
純資産額 (百万円)	5,215	5,187	4,883
総資産額 (百万円)	15,993	17,753	15,987
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	21.50	21.58	1.66
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	32.6	29.2	30.5

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政権交代後の景気対策への期待から、円高の是正や株価の上昇など、明るい兆しが見られるものの、欧州の債務問題や新興国の成長鈍化など依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは中期経営計画（CHALLENGE SEIKO IC 2014）の『グループ総合力を発揮できる経営基盤を構築し、社会インフラ事業を中核とした高収益企業への変革を目指す』を基本方針に、5つの重点課題（事業戦略 コア技術戦略 グループ経営基盤戦略 人材マネジメント戦略 CSR経営の推進）に取り組んでおります。また、2013年度におきましては『グループ総合力を発揮できる経営基盤づくり』を加速させるため、更に事業戦略の推進及びコスト構造改革に取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、電力システムにおいて総合制御所システムなどの大口受注がなかったため、受注高は3,390百万円（前年同四半期比 10.6%減）、売上高は4,881百万円（同 2.4%増）となりました。

損益につきましては、営業利益は235百万円（同 11.1%減）、経常利益は271百万円（同 6.3%減）、四半期純利益は255百万円（同 0.3%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### （電力システム事業）

配電自動化システムやリプレース・メンテナンス市場に注力してまいりましたが、大口総合制御所システムがなかったことや、メンテナンスや設備更新関連が減少したことにより、受注高は727百万円（前年同四半期比 54.9%減）となりましたが、売上高は前年度受注の総合制御所システムの計上により1,568百万円（同 20.1%増）となりました。

（社会システム事業）

一般産業においては、環境・省エネ関連の受配電システム等が堅調に推移し、受注高は1,802百万円（前年同四半期比 33.0%増）、売上高は2,563百万円（同 0.1%減）となりました。

（情報システム事業）

港湾関連システムやASPサービスなどは堅調に推移いたしましたが、金融向けの受託開発分野が減少し、受注高は394百万円（前年同四半期比 4.4%減）、売上高は240百万円（同 36.3%減）となりました。

（その他事業）

産業関連の設備投資の抑制や厳しい価格競争が続く中、電子機器関連が堅調に推移し、受注高は465百万円（前年同四半期比 13.6%増）、売上高は509百万円（同 1.6%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

（流動資産）

当第1四半期連結会計期間の流動資産の残高は、前連結会計年度と比較して1,699百万円増加の12,840百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が1,299百万円増加したことによるものであります。

（固定資産）

当第1四半期連結会計期間の固定資産の残高は、前連結会計年度と比較して66百万円増加の4,912百万円となりました。これは主に、有形固定資産が減価償却等により39百万円減少したものの、投資有価証券が時価の上昇等により107百万円増加したことによるものであります。

（流動負債）

当第1四半期連結会計期間の流動負債の残高は、前連結会計年度と比較して1,506百万円増加の10,188百万円となりました。これは主に、短期借入金が増加したことや支払手形及び買掛金が増加したことによるものであります。

（固定負債）

当第1四半期連結会計期間の固定負債の残高は、前連結会計年度と比較して44百万円減少の2,377百万円となりました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間の純資産の残高は、前連結会計年度と比較して304百万円増加の5,187百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことやその他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は25百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年5月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,953,695	11,953,695	福岡証券取引所	単元株式数100株
計	11,953,695	11,953,695		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年1月1日～ 平成25年3月31日		11,953		2,323		1,603

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 121,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,818,900	118,189	
単元未満株式	普通株式 13,295		
発行済株式総数	11,953,695		
総株主の議決権		118,189	

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式30株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が900株（議決権9個）が含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社正興電機製作所	福岡市博多区東光二丁目 7番25号	121,500		121,500	1.01
計		121,500		121,500	1.01

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,426	1,675
受取手形及び売掛金	1 7,548	1 8,848
有価証券	64	88
商品及び製品	159	99
仕掛品	1,446	1,542
原材料	290	268
その他	235	345
貸倒引当金	30	26
流動資産合計	11,141	12,840
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,555	2,527
その他(純額)	886	875
有形固定資産合計	3,442	3,402
無形固定資産	119	118
投資その他の資産		
投資有価証券	1,207	1,314
その他	82	81
貸倒引当金	4	4
投資その他の資産合計	1,284	1,391
固定資産合計	4,846	4,912
資産合計	15,987	17,753
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,290	4,756
短期借入金	3,009	3,992
未払法人税等	37	24
賞与引当金	-	197
工事損失引当金	12	4
その他	1,332	1,213
流動負債合計	8,682	10,188
固定負債		
長期借入金	428	428
退職給付引当金	1,747	1,749
その他	246	199
固定負債合計	2,422	2,377
負債合計	11,104	12,566

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,323	2,323
資本剰余金	1,640	1,640
利益剰余金	1,035	1,260
自己株式	52	52
株主資本合計	4,946	5,172
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47	53
為替換算調整勘定	15	38
その他の包括利益累計額合計	63	15
純資産合計	4,883	5,187
負債純資産合計	15,987	17,753

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	4,766	4,881
売上原価	3,811	3,998
売上総利益	955	883
販売費及び一般管理費	690	647
営業利益	265	235
営業外収益		
受取利息	0	0
為替差益	24	40
貸倒引当金戻入額	4	5
その他	12	5
営業外収益合計	41	52
営業外費用		
支払利息	10	11
その他	6	4
営業外費用合計	16	15
経常利益	290	271
特別損失		
固定資産廃棄損	19	-
特別損失合計	19	-
税金等調整前四半期純利益	270	271
法人税、住民税及び事業税	6	17
法人税等調整額	9	0
法人税等合計	15	16
少数株主損益調整前四半期純利益	254	255
四半期純利益	254	255

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	254	255
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	70	100
為替換算調整勘定	15	22
その他の包括利益合計	54	78
四半期包括利益	309	334
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	309	334

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日至平成25年3月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
1 連結会計年度末日満期手形の会計処理 期末日満期手形は手形交換日をもって決済処理しております。従って、当連結会計年度末日は、金融機関の休業日のため、期末日満期手形が次の科目に含まれております。	1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理 四半期連結会計期間末日満期手形は手形交換日をもって決済処理しております。従って、当第1四半期連結会計期間末日は、金融機関の休業日のため、四半期連結会計期間末日満期手形が次の科目に含まれております。
受取手形 17百万円	受取手形 17百万円
2 受取手形裏書譲渡高 5百万円	2 受取手形裏書譲渡高 3百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日至平成25年3月31日)
当社グループの売上高は、事業の性質上、第1四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間の売上高が他の四半期連結会計期間と比較して多くなる傾向があります。	同左

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	
減価償却費	56百万円	減価償却費	74百万円
のれんの償却額	22百万円		

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年2月17日 取締役会	普通株式	76	6.50	平成23年12月31日	平成24年3月15日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年2月18日 取締役会	普通株式	29	2.50	平成24年12月31日	平成25年3月14日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電力 システム	社会 システム	情報 システム	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,305	2,566	377	4,249	517	4,766		4,766
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	2	53	56	213	270	270	
計	1,305	2,568	431	4,305	731	5,036	270	4,766
セグメント利益又は 損失( )	111	171	5	287	22	265		265

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、制御機器、電子装置、(高分子/液晶)複合膜フィルム等の製造販売、汎用電気品等の販売であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電力 システム	社会 システム	情報 システム	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,568	2,563	240	4,372	509	4,881		4,881
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	5	46	51	196	248	248	
計	1,568	2,569	286	4,424	706	5,130	248	4,881
セグメント利益又は 損失( )	54	180	10	246	10	235		235

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、制御機器、電子装置、(高分子/液晶)複合膜フィルム等の製造販売、汎用電気品等の販売であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	21円50銭	21円58銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	254	255
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	254	255
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,832	11,832

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年2月18日開催の取締役会において、平成24年12月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議しております。

配当金の総額 29百万円

1株当たりの金額 2円50銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成25年3月14日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年5月8日

株式会社正興電機製作所  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 内藤 真一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中野 宏治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社正興電機製作所の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社正興電機製作所及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。